

芒種

春が去り、夏が近づく予感を覚え、田植えが始まり、雨空が増える頃。植物の種をまき、麦の刈入れや田植えを行う目安とされてきました。夏秋の豊作を祈り、苗を植えます。



春の陽気の中で気持ちよく農作業ができる、初夏の季節。春に加わった新しい仲間たちは肌もじんわり焼けて、体力作りの日々。梅雨入りまでに、夏の準備に励みます。

今月のことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

春の季節、美しく育った春葱たち

3月に京都市内で定植し、春の穏やかな気候の中で丁寧に育てた春葱。4月から5月にかけては、1年の中でも特に葱の生育に適した時期です。日差しと気温のバランスが良く、葉は青々とまっすぐに伸び、九条ねぎならではのやわらかな風味と豊かな香りがしっかりと引き出されます。一方、この時期は病気や害虫の発生も増えてくるため、ねぎを健康に育てるためにはきめ細やかな管理が欠かせません。日々の観察と適切な対応を重ね、見た目にも美しい九条ねぎに仕上がりました。



農人たちの畑での作業の様子、THE 農業！の現場の「こと」を発信

梅雨の季節の農作業について

梅雨入りする6月は、ねぎの管理が一気に難しくなる季節です。適度な雨は、ねぎの成長にとって大切なものですが、雨が多すぎると、逆にねぎの健康を損ねてしまいます。土が過度に湿ってしまうと、ねぎがうまく呼吸できず、病気にかかりやすくなったり、生育が止まってしまったりすることもあります。人間と同じで、雨や湿気の中での作業は体力を奪われやすくなります。雨でゆるくなった土の上では、身体のバランスを保つ意識も強くなり、怪我もしないようにと神経も使います。だからこそ、ねぎと同じように、自分たちの体調にも気を配りながら日々の作業に取り組んでいます。



夏に向けて定植作業もどんどん進めています

とある日の農人日記。

予報に無かった雨が降り、夕方まで止まなかったので防除予定を延期しました。雨量は少なかったですが、定植直後の圃場にとっては少しばかり灌水になったのではないかと思います。（丹後・浅尾）



雨に濡れたねぎたちは、しっとりとして、どこか豊かそうでキレイ。

畑の整備として、マルチ資材の回収作業も行いました。土に埋まっている部分をスコップで掘り起こし、2人1組になって剥がしていきます。



古都・事・言 3つの「こと」を伝えます

ことねぎだより

NO.217

2025年6月号

TEL: 075-601-0668

こと京都株式会社

KOTO GROUP
4A

春葱



こと京都は
「野菜を食べてよう」
プロジェクトの
サポーター企業です

私たちは、農林水産省が実施している本プロジェクトの趣旨に賛同し、九条ねぎを通じて野菜の消費拡大に取り組んでいます。